

県中教育

随想

よく見て、よく関わって

県中教育事務所長 芦沢 康



事務所移転に伴い、所長室の書棚の整理を行っているのと、思い入れのある冊子を見つけた。『授業をつくる16の視点』。教育センターの指導主事時代に、今は亡き友と共に企画し、一年をかけてセンター内の各部署を越えて制作したものだ。

ペラペラとページを繰る。

発行から13年が経ち、学校を取り巻く環境は大きく変わったが、書かれてある内容は、今でも十分に通用する(興味のあつた方は、センターのWebサイトを参照されたい)。

その中にある「授業を進める」という章の冒頭には、斎藤喜博『教育学のすすめ』から次

の文章が引用されている。

「教育とか授業においては、『見える』ということはある意味では『すべてだ』と言ってよいくらいである。それは『見える』ということとは、教師としての経験と理論の蓄積された結果の力だからである」。

この文に出合ってから以降、私は、教師は何を見ているのかを指導助言の軸に置いてきた。この文を引用された当時の主任指導主事には、心から感謝をしている。

● 昨年度は所長訪問で域内14校を訪問し、今年度も100校を予定している。駆け足だが授業を参観させていただけなのはありがたい。

● 思うこと、願うことは、「よく見て、よく関わって」ということだ。授業に参加していない子がいますよ、分かる

編集・発行
福島県教育庁
県中教育事務所

発行責任者
芦沢 康

編集協力
県中市町村教委連各支会
県中各地区小中学校長会協議会

らなそうながいますよ、分かったような顔はしているけれど本当は分かっていない子がいますよ、と声をかけたくなる。

黒板や教卓の前から離れ、子どもの中に入り、足を使っ

て一人一人を見てほしい。そして、声をかけてほしい。できれば一人一人のがんばりを認め、ほめ、励ましてほしい。あの子はがんばっているから大丈夫だろう。あの子は静かにまじめに授業を受けているから大丈夫だろう。そんな思いも捨ててほしい。教師が思う「普通の子」が、翌日から学校に來なくなるケースは、枚挙にいとまがない。多かれ少なかれ、誰しも承認欲求を持つっている。

● 皆、かけがえのない存在である。一人一人の幸福を願い、一人一人を大切にしたい。県がめざすウェルビーイングの実現の第一歩は、我々教師の日々の営みにこそあるのだから。

市の未来を思いめぐらせて

田村市教育委員会教育長 箭内 良一



穏やかな人柄の市民が多く、緑豊かで「あぶくま洞」など観光資源にも恵まれ、魅力

いっぱいの中市であるが、令和七年度中に出生した市内のこどもの数は100人あまりで10年前の半数以下。このペースで少子化が進んでいくと市の未来はどうなるのか。ライフラインはもとより商業、農業、福祉、教育、あらゆるものが現状のまま続いていることは考えにくい。とりわけ学校は学級数が減り教員数も減ることになる。

● このような状況を見据えて、本市では令和四年度から教育の充実に向けて「東大10人構想」を掲げ、事業を推進している。この施策は、まぎれもなく市の未来を担う人材育成であり、あまりにも東大というネームバリューが高すぎて現実離れしていると受け取られかねないが、要するに児童生徒に高い学力を身に付

ける。具体的施策の一例としては、指導体制の充実を図るべく授業推進員制度を立ち上げ、授業推進員(Classroom Worker Teacher)を各学校に配置してより一層授業が充実するよう努めている。数学等の授業を担任と共に行い、特に理解の早い児童生徒をさらに伸ばす指導を充実させ学力向上に取り組んでいる。

● 市の未来は児童生徒にかかっていると言っても過言ではなく、学校の果たすべき責任は重い。できることを全力で真摯に進めていく。このことを学校現場だけでなく地域の方々との対話の場で話題にして、より多くの市民とともに邁進していきたいと考えている。

子供の読書活動優秀実践校

「子供の読書活動優秀実践校」受賞校としての取組

郡山市立富田東小学校

本校は、全校児童数が800人を超える大規模校のため、自由に図書館を利用することが難しい。しかしながら学校司書を中心としてどの子も読書に親しめる環境づくり、図書館運営を目指して様々な取組を行っている。ここでは、本校の取組の一端を紹介する。

①図書貸し出し100%に向けての取組

各学級、週に1回(月あたり4〜5回)の図書の貸し出し日を設定し、貸し出しを行っている。児童数が多く、休み時間自由に貸し出しを行うことができない。そのため、学級の貸し出し日を設定して図書の貸し出しを行っている。決められた日に来館することで、自分の読みたい本をじっくり選ぶことができ、また友達と誘い合って来館することが貸し出し100%の原動力となっている。

②図書イベントの開催

季節に関するイベント、学校司書や図書委員会、ボランティアによる読み聞かせなど

を通して、児童が読書に興味関心をもつきっかけ作りを行っている。読み聞かせは司書教諭がボランティアとの調整を行うなど、学校司書と連携して実施している。イベントと関連させ、児童の興味関心を喚起することにより、児童が図書館へ足を運ぶきっかけとなっている。また、学校司書や読書ボランティアの読み聞かせにより、作品への想像をかき立て、新たな読書への意欲につなげている。

③国語科の教材と関連させたブックトークの実施

学校司書が中心となり企画運営を行っている。主に下学年の国語の教科書に掲載されている教材文に関するブックトークを展開している。第1学年「どうぶつの赤ちゃん」、第2学年「スイミー(レオ・レオニ)」、第3学年「モチモチの木」のブックトークをそれぞれ行なった。この試みを通して、児童の作品への理解が深まるとともに、それらに関連する書籍への興味関心の高まりが見られた。

④図書ディスプレイの展示

学校司書が企画運営を行っている。特に作家に関する展示を行う際には、出版社と連絡調整を行い、協力を得て実施している。季節に応じた展示、作家やテレビ番組と関連させた企画、国語の教科書に掲載されている単元に関連した展示、四季を生かした展示、作家の紹介、児童が親しむもつテレビ番組と関連させることによって、児童の興味関心を高めている。



本が大好きな子どもを育てるために、これからも読書環境を整えていきたい。

「ふくしまっ子元気大賞の取組を通して」

須賀川市立義務教育学校稲田学園

稲田学園は、9か年の系統的・継続的な学びを通して、「自己マネジメント力や豊かなコミュニケーション能力を身に付け、社会の担い手として、自他の多様なウェルビーイングの向上を目指す児童生徒」の育成を目指しています。この目標を達成すべく、稲田学園は大きく三つの取組を行いました。

一つ目は、「義務教育学校の下を生かした活動」の推進です。児童生徒会が中心になり、1〜9年生が縦割り班で鬼ごっこやドッジボール等の運動を楽しむ企画を行いました。みんなで体力向上を図り、友情を育む素敵なイベントになりました。

二つ目は、「スペシャリストによる保健体育指導・食育・健康教育」の推進です。保健体育科教諭が前期課程の体育を受け持ち、より専門的な指導を行っています。また、地元企業の協力の下、育てたトマトを「稲田っ子ブランドドライトマト」として商品化・販売し、

アフガニスタンにランドセルを送る費用を自分たちで作ることを目的とするプロジェクトを立ち上げ、栽培・レシピの考案等、食育に関する取組も教科等横断的に実施しています。他にもたくさんの専門性の高い外部講師をお呼びして日々の教育活動にあたっています。

三つ目は、「メディアアカウントのロールの改善に向けた地域・家庭との連携」の強化です。睡眠時間・メディア機器の使用時間を記録した「元気チェックカルテ」を作成したり、そのデータをもとに地域保健委員会等で、地域・家庭・学校が協力して取り組む活動を考えたりしました。今年度はその協議を受け、保護者向けの「子育て講座」を開講予定です。

今後も「チーム稲田学園」として、稲田の魅力を存分に発揮できる取組を行っていききたいと思います。



初任者紹介 ～ 三か月を振り返って ～

玉川村立須釜小学校

教諭 加藤 璃乃



不安と緊張でドキドキしながら着任したあの日から、早くも3か月が経とうとしています。毎日が新しい発見で、相変わらずドキドキの連続でしたが、あつという間でした。そんなドキドキしている初任者でも、子どもたちからすれば、他の先生方と同じです。その責任の重さを日々実感しています。

この3か月、今の自分が思いつく全てのアイデアを駆使して授業に取り組んできました。それでも思ったようにできず、課題は山積みです。子どもたちの「分かった!」「できた!」という声に支えられてなんとかがんばっています。

周りの先生方の姿を見て、何でも聞いてたくさん吸収していきたいと思っています。また、目の前のことだけでなく、時間も空間も広い視野でとらえ、子どもたちの変化にも気付けるようになっていきたいです。

今はまだ支えられています。子どもたちのために一歩ずつ全力で努力していきます。

田村市立常葉小学校

教諭 宗像 眞結子



4月に田村市立常葉小学校に着任して、早くも3か月が過ぎました。授業や生徒指導で一日と同じ日はない日々にも少しずつ慣れてきました。これまでを振り返ると、授業や学校生活において児童に助けられることが多く、児童の元氣と笑顔に支えられた3か月だったと感じます。

一方で、少しずつ自分自身の具体的な課題が見えてきました。現在の私の大きな課題は授業です。授業では、教師が本時のゴールを明確にし、ねらいに迫る活動を組み立てることが大切であると感じました。日々の教材研究を丁寧に行うとともに、児童の考えを生かした授業を意識していきたいと思っています。周りには尊敬できる先生方がいらつしやるので、相談し、助言をいただながら成長できたらと思っています。

これから教員としての自覚と責任をもち、一人一人の児童が自分らしく生きることができるよう支援し、私自身も学び続けていきます。

須賀川市立西袋中学校

教諭 迎田 翔太



4月に須賀川市立西袋中学校に着任し、早くも3か月が経とうとしています。

新任としての毎日は、授業や部活動、学級経営など初めてのことばかりで、目まぐるしくも新しい発見と学びの連続でした。授業中に生徒が見せてくれる「分かった」という笑顔に教員としてのやりがいを感じ、日常の何気ない会話を通じて生徒たちとの絆が深まっていくことに、日々喜びを感じています。時には壁にぶつかり、悩むこともありませんが、周りの先生方の温かいご指導や励ましの言葉、そして優しい気配りに支えられ、感謝の気持ちを胸に前を向いて歩むことができています。

今後とも、生徒に寄り添い、共に喜怒哀楽を分かち合いながら、初心を忘れず邁進していきます。そして、生徒からも、保護者の皆様からも信頼していただける一人前の教員へと成長できるよう、日々精進していきます。

福島県立安積高等学校

教諭 後藤 大輝



4月に安積高等学校に着任し、3か月が経過しました。初勤務の日を含め、最初のころは緊張であまり眠ることができなかったが、周りの先生方のサポートを受け少しは新たな環境に慣れてきた。

不安だらけであり、特に授業に関しては不安が大きかった。多くの研修や先生方の話を聞き、何度も最も大切な事は「授業」であると言われた。研究授業や先生方からのアドバイスはあるが、それでも基本的に授業は自分で準備し、一人で行わなければならない。生徒が主体的に参加できる授業になっているのか、生徒が理解しやすい説明をできているのかなど不安なことは今でも多い。だが一方で、授業をしている時間が最も楽しい時間でもある。失敗したときはとても落ち込むが、生徒が理解してくれた時の嬉しさはとても大きい。そのため日々教材研究に注力している。

これからよりよい授業を展開できるように試行錯誤していきたいと思う。

福島県立あぶくま支援学校

教諭 長嶋 未悠



4月にあぶくま支援学校に着任し、初めての教員生活が始まり、3か月が経とうとしています。子どもたちと過ごす毎日は刺激にあふれており、日々成長していく姿に私自身も励まされ、「私も頑張らなければ」と力をもらっています。初めての社会人生活で右も左も分からず不安もありましたが、周囲の先生方から温かい言葉掛けや的確な助言をいただき、心強く感じています。同期の仲間とも支え合いつながりながら過ごすことができています。

現在は一つ一つの授業を考えることで精一杯ですが、子どもたちが主体的に学習に取り組めるよう、適切な言葉掛けや手立て、環境設定等を考えています。そのために、子ども一人一人と丁寧に向き合いたいと思います。大規模校であるという本校の特色を生かし、多くの先生方との対話を通して、目指す教員像に近づけるよう努めていきます。

県中教育事務所よりお知らせ

総務社会教育課

社会教育担当より

読書活動支援者育成事業
研修会について

本研修会は、学校や図書館など、地域で活躍される読書ボランティアの方々を中心に、専門的な知識や技能の向上を目的とし、6月18日に開催しました。

講話では、浪江まち物語ったえ隊の岡洋子氏から、「紙芝居で伝えたいこと〜東日本大震災の記憶をたどる〜」という演題で、紙芝居の実演と、読む時に心がけていることや工夫していることについてお話しいただきました。

講話・演習では、「絵本よみさせ協会」の山田昭彦氏による「絵本よみさせセラピー®」の体験型演習を行いました。

受講者は、山田氏による読み聞かせを通じて、自らの内面を見つめ直すことによる、セラピー効果を体感しました。また、グループでの話し合いでは、受講者がそれぞれの思いや感想を積極的に伝え合い、大変有意義な活動となりました。

今後も、子どもたちの読書活動を支える人材の育成と資質の向上に努めていきます。

地域連携担当教職員等
研修会について

本研修会は、地域連携担当教職員や地域コーディネーター等の資質向上を図ることを目的とし、磐梯町教育委員会の本川良氏を講師として、6月23日に開催しました。

講話では、「先生がつなぐ地域と学び、地域がつなぐ学校と学び」あいだにたつしごと〜と題して、磐梯町の運営協議会や地域学校協働活動の事例をもとにお話しいただきました。地域連携と授業は同じであり、人の力を信じることで、そして人と人との間に立ち、学びが生まれる場を共に作る大切であることを学びました。

演習では、フアシリテーション能力を高めるため「ホワイトボード・ミーティング」の手法を体験しました。活発に意見を交わす姿が見られ、実践的なスキルアップに繋がる有意義な会となりました。

今後も、実践力を身に付けられる研修会を展開し、地域と学校がよりよい連携・協働をしていけるよう推進していきます。

学校教育課 管理担当より

不祥事根絶宣言〜一人一人の意識と職場の力で不祥事をなくそう〜

教育は、教職員や学校に対する信頼の上に成り立っています。これは「信頼される学校づくりを職場の力で」で示されています。

昨年度の所長訪問の際には、各校で「不祥事根絶プロジェクト」のポスターを目にすることができました。このような各校での着実な取組もあり、令和七年度の不祥事の件数は減少しました。

今年度は特に、各所属での「不祥事根絶宣言」の活用をお願いいたします。「子どもたちの模範として」「風通しの良い職場づくり」等が記されています。様々な機会を活用し、教育に携わる者としての使命と責任を深く自覚し、子どもの成長を支える立場として、不祥事根絶の確認をお願いいたします。引き続き、すべての児童生徒が、笑顔で学校生活を送ることができるよう、不祥事根絶に向けた実効性のある取組をお願いいたします。

学校教育課 指導担当より

新「授業スタンダード」活用促進事業について

今年度2年目となる本事業では、『学びの変革』授業デザインを作成・検討中です。県中域内の2校を含む県内6校に実践協力校として御協力いただき、検討を重ねているところです。今年度末に先生方に配布される予定です。

すべての子どもに学びを保障するための支援の在り方や、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためのポイントが示されています。具体的には、子ども一人一人に応じた支援、ユニバーサルデザインを意識した工夫、一人一台端末の活用、誰一人取り残さないための学級風土などです。また、先生方の「観」を見つめ直し校内研修の土台づくりを行ったり、チェックシートを活用した授業づくりや授業参観を行ったりすることも可能です。

現段階のものが県教育委員会のホームページに掲載されており、状況が大きく変化中、学びの変革によりすべての子どもに資質・能力を確実に育成するために、今年度のうちからぜひ御活用ください。

相談・研修支援について

地域支援体制整備事業では、特別支援教育に係る地域の支援体制の整備や特別な支援を必要とする子どもへの指導・支援の充実を図るため、相談及び研修支援を実施しています。

【相談支援】

幼稚園・小・中・義務教育学校・高等学校等に在籍する幼児・児童生徒や保護者、教員等を対象に、学習面や行動面、社会性の課題、発達障がい等の悩みに専門の相談員が学校を訪問して具体策を一緒に考えます。よくある相談事例として「このだわりが強い」「集中力が続かない」等があります。早期支援・早期対応が「困っている子」を救います。

【研修支援】専門性向上や校内体制の充実に向け、学校等のニーズに応じた研修会等をサポートします。「通常の学級の特別な支援が必要な子への支援の在り方」等、実践的な内容を学び、支援の質を高めます。

子どもたちが輝く環境を共に築いていきましょう。詳細は当事務所でお問い合わせください。

相談・研修支援
依頼様式